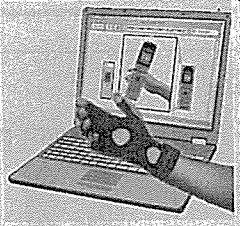


# 商品の大きさ疑似体感

ネット通販向け 名古屋工大がVR技術



【名古屋】名古屋工業大学（以下、名工大）の舟橋健司准教授の「VR技術」を応用した「疑似体感」システムを開発した。インターネット通販向けに商品の大きさを疑似的に体感できるバーチャルリアリティ（VR）技術を開発した。振動子付きグローブ型入力装置で指の動きのパターンを計算・分析し、振動で大きさを伝える。デジタルカメラなどを手で握れる商品の大きさを疑似的に体感できるVR技術（イメージ）

開発した技術では、センサーが5個付いたグローブを使う。従来の高価なグローブは指の全関節の動きを検知するため、約20個のセンサーがついていた。舟橋准教授らは小指を曲げる「薬指も曲がる」など、指の関節の関

連性を解析して精度を高めた。実験では5パル程度（約5センチ）の誤差で判断できた。ネット通販向けの商品仕様にサイラスなどの表記があるが、「持ち心地など、実際の感覚として捉えたい」とはある。VR技術は宇宙訓練や医療分野で実用化されているが、装置価格は数百万円する。市販の5センサーグローブは10万円程度だが「量産すれば1万円以下も可能（同）。年内をめどに大学内外でサイラス実験を開始し、ネット通販企業と協力して実用化を目指す。